

「継続は力なり!! 地域の話合い活動を支え、未来の農業のあり方を見出す」

京都府 宮津市農業委員会 養老地区連絡会議

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員：	14人
○ 農地利用最適化推進委員：	10人
○ 農業委員会協力員	73人
○ 事務局職員：	2人
○ 市町村行政との連携状況：年1回以上随時開催	



2 地区の特徴、状況、課題

- 産業は天橋立を中心に観光産業が盛ん、農業経営は小規模で約9割が水稻栽培、特産品に山の芋、オリーブ
- 市の最北部に位置し、集落は3地区に集約され、山から海までの距離が近い中山間地で水稻栽培を中心に営農
- 高齢化や鳥獣害により今後の担い手い大きな不安があるが、京力農場プランは全ての地域でプラン実質化済

3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 令和2年7月に農業委員会委員の改選が行われ、担当委員(2名)がいずれも交代。新旧で引継ぎ会を行い、3地区の課題等について協議
- 現在も旧委員は所属地区で中心的な役割を担うとともに委員のサポートを行う。
- 波見谷地区では、令和元年度に京力農場プランを実質化。令和2年度からは、本プランを推進するため、毎月1日に会議を開催している。
- 養老中部地区、田原地区は、令和2年度中に各3回の話し合いを踏まえ委員も参加し、プランの実質化を行った。

4 成果（京力農場プランの目標実現に向けた取組内容）

- 波見谷地区は、集落営農の勉強会や共同での作物の栽培など、これまで個々に対応してきた農業を共同化していく手法について話し合いを継続。また、令和2年度から農地中間管理事業で農地の集積・集約化にも取り組む。
- 田原地区、養老中部地区は、令和3年度より委員のサポートで持続可能な農業について波見谷にならい話し合いを進める予定

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください